

【様式第 4 号】

令和 7 年度 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 まちで暮らすネットワーク部会 ワーキンググループ 第 4 回 議事録	
日 時	令和 7 年 9 月 1 1 日（木） 1 5 : 4 5 ~ 1 7 : 2 0
開催場所	保土ヶ谷区役所 2 F 202 会議室
出 席 者	夢 2 1 ホーム、恵和青年寮、十愛病院、基幹相談（2 名） 計 5 名
欠 席 者	同愛会/二次相談、神奈川新聞/記者（オブザーバー）
開催形態	公開（傍聴人： 名） ・ 非公開
議 題	1) 見学についての経過報告 ○てらん広場の見学について 見学の件は OK（責任者は了解撮れた。現場の調整をこれから； 二次相談経由）10 月の WG で話を詰めていく。 ○中井やまゆり園の見学について 夢 21 ホームが調整中。見学するまでの段取りが結構かかりそう。 ○恵和より 現在、恵和で集中支援を行っている。その方の場合、すでに集中支援の後、泉区に居所を今後移すことになっている。入所して 4 日で本人は落ち着いた。緑区基幹から相談ということになっているが、実質は出先をがっちり決めた状態で、重度訪問介護の受け入れを決めてから集中支援が入っている。 2) 現在取り組んでいる「集中支援」の在り方について意見交換、共有 【恵和、十愛病院、夢 21 より】 ○今は集中支援が入るときに、横浜は発達障害者 C になっている。違うルートを作ること自体が難しい状態。恵和とまつかぜの支援者が中核的人材と今回なるので、そこから横にどう広げていけるか。 ○強行研修は、ABA（応用行動分析）が主。理論としてはそれでいくのは正道。研修を受けたからすぐに実践が出来るわけではなく、日常で支援をやっている人がさらに深めるために学ばないと意味がない。 ○この強行 WG を通して、どう強度行動障害の実践を広げていくかが大事ではないか。 【恵和】 ○現在、集中支援に入っている人の次が、どんな人がいつ集中支援が入るかは決まっていない。見る人が見たら、恵和で取り組んでいる集中支援は、こんなにかちがちで良いの？と思うかもしれないが、夜中に何度も起きる、母や通所先への他害があった人が現在集中支援を受けているが、入所 4 日間で一切そのような他害がなくなった。 ○T-TAP をとって、来る前にすでに準備。これとって次これ、という流れを全部決め

てから受け入れる。課題も手順が順調に流れないと、立ち上がってしまうので、その調整に4日かかった。今は全く人に他害はない。

支援準備を3か月して、物をそろえるのが1か月。相当、職員はきつい状況。ただ、分からないなりに経験値が詰めているので、アクティビティシステム2ケース目なので、しっかりはまると、「人に対する安心感」が全く変わってくる体感がある。
○現在の集中支援をしている方の場合、指示されているのが人ではなく、ものなので、本人にとって分かりやすい。自分のペースで出来るのであれば、安心できるタイプ。

【十愛病院】

○こうだよというのを押し付けられるのが本人のストレスになり、逆に本人のペースで出来れば 適応していきやすいのではないかな。

【恵和】

○モノへの着目度は高い人は、T-TAP で進めやすい。支援の統一がマニュアル化しやすい傾向がみられる。発達障害者支援センターからもそのような話があった。

【十愛病院】

○話は変わるが、日野高等特別支援学校に行った。意外に構造化を進めていると感じた。同時に、構造化に慣れた子が18才で、いきなりの環境変化についていけない。18歳の壁が想像以上に大きいことがわかった。支える側のマッチングを考えていく必要がある。

外れる人とレールに乗れる人の差が激しくなっているように感じた。

3) ワーキングの進め方 意見交換、確認

【恵和】

○まずは一旦、議論をする土台を作るために、入所施設等の見学をすすめる。

➡一同賛成

○恵和の集中支援から始めるのが現実的か。10月9日 16:30- コア会議が終わった後に行くのはどうか（提案）

恵和に行く場合、車は恵和の方で用意するのが可能。

てらん広場には基幹から連絡しておく ➡9月12日 連絡済み

【十愛病院】

○夢21にいる強度行動障害のFさんの経過も追っていきたいが。

➡Fさんの支援手順書がどんどん変わっていつているので共有したい。

ぜひ見に来てほしい（夢21より）

4) グループホームのあり方について意見交換

【基幹相談①】

○横浜市が＜職員2：利用者1＞のGHを考えている。

2名分の報酬では赤字になってしまうので、補填は必要だが注目している。

➡事業としての継続性が大事ではないか（十愛病院よりコメント）

【恵和】

○既存のモノをどうするかが重要。どんどんサービスや箱モノを新設するより、既存のホームが箱ありきになってニーズに合わない状況になっている。

非常勤の世話人スタイルで GH を運営していても、専門性があがらず、本当にナイトケアの必要な人に対して、ベッドが提供できないジレンマがある。

○問題は入居者の高齢化。ただただ、新規を入れて行ってもどうなのか。

本当はサービスにつながりづらい人が入れる仕組みがほしい。

そこには専門性が担保されている必要がある。GH の機能をどうするか。

○ずっと GH に住んでいる人がいる。どうするか？

そこで考えるべきは意思形成、意思決定。

【基幹相談②】

○ある法人の GH から相談されたことがあり、入居者の高齢化で、GH で見きれないが障害福祉サービスでなんとかならないか？と聞かれたので、ケアプラザや地域包括、ケアマネジャーに相談していないか聞いたら、相手が黙ってしまった。

それならいいです、と言われて終わり、その後の相談もなかった。

【十愛病院】

○GH で看取るのがそもそも制度設計の中にないの、無理があるのでは？

どういう移行を想定するかが重要。移行をスムーズにできた例がない。

【恵和】

○本入所で 65 才。知的身体の方。短期に切り替えて、介護保険併用にする。

そういうケースが出てきたが、局も OK してくれた。デイサービスも行ったらどうかと考えている。

○県央福祉会も訪問看護ステーションの近くに GH 作って、やっている。

【夢 2 1】

○本人がのぞむなら、うちは GH で看取りをおこなうケースがある。

最後までやっていくと、職員集団としてスキルが挙がる。だから看取りまでやっていきたい。

【基幹相談②】

○訪問看護や訪問診療が充実してきているので、看取りを GH でも出来る状況は整ってきたように思う。

【十愛病院】

○訪問診療や看護をパッケージにして導入できると、強度行動障害も受け入れしやすいのではないか。

1 つの事業所でサービス提供を抱え込む形は望ましくないと認識しているが、変化を促すために、やむを得ず最初はパッケージにするのは有りではないか？

5) 入所施設のあり方について意見交換

【恵和】

○入所で言えば、生活介護で報酬がまかなえているから、思い切って外に出すという選択が取りにくい。入所の人が日中、内部の生活介護を使うと報酬が入るが、外の生活介護に出してしまうと、その分、施設外から人をとらなければ経営が成り立たないことになる。

【夢 21】

○てらん広場は、昼間、しっかり外に生活介護を出している。なかなか他法人では出来ないことではないか。

【十愛病院】

○意識をして、入所している当事者を外に出していく意味を考えるかどうか。
そこまで落とし込みたい

○短期入所のニーズはどこかの施設に集中しているのか知りたい。

【恵和】

○白根学園とか一部の施設に集中しやすい傾向はある。短期で名前は登録していても全然稼働していない施設もある。

6) 見学先についての検討 続き

【恵和】

○芹が谷やまゆり園も見に行ったらどうか。

他にも、松風学園では表出コミュニケーション支援（PECS）をやっていて、結構細かい支援の工夫をやっている。人によってはそれで、コミュニケーションが重度でも撮れるようになる人がいる。

こうしたいという意志を他者に伝えられると、すごく行動が変わる。

そういう取り組みも見てみると良いと思う。

【十愛病院】

○医療の現場だと、なかなかそのような支援のアプローチが難しいのがジレンマ。

【恵和】

○病院に求めたいのはレスキューとしての医療。強行の GH を作るとなると、やはり生活を見ていかなければならなくなるのではないか

7) 本日の議論まとめ

○まつかぜ、松風、芹が谷に行きますか？まつかぜは、発達障害者 C のコンサルが入っている。

・まつかぜ、松風学園の見学 → 恵和が問合わせる

・芹が谷やまゆり園の見学 → 夢 21 が問合わせる

ひと通り、気になる横浜市内、関係のある県内の入所施設等を見学指定から振り返って見たらどうか？

	○旭区にある（あさぞら）も GH をやっているのでは？ どんな入居者を受け入れているのか？ →恵和が問い合わせてみる。 ○次回の強度行動障害 WG は、会議ではなく、恵和青年寮の集中支援を見に行く。 （基幹相談①は次回 WG の際、同じ時間帯で区作連会議があり、欠席）。 ○同愛会・てらん広場には、基幹相談からお声かけする。 →まちで暮らすネットワークの事務局会議後なので、 そのまま行ける人は、恵和が車を手配。 <u>次回： 2025年10月9日(木) 16:30～※まち暮らし部会（事例検討会）</u> <u>終了後、恵和青年寮に移動し、集中支援の現場を見学予定。</u>
--	--